

製品・サービス動向-国内

■パイオニア VC：ビジュアルコラボレーションブランド「xSync」を発表、全世界を高速・高品質・セキュアにつなぐ「xSync Prime Collaboration」を提供開始、データ共有高速化などの新バージョンも発表

パイオニア VC 株式会社(東京都目黒区)は、2014年10月より、全世界を高速・高品質・セキュアにつなぐビジュアルコラボレーションサービス「xSync Prime Collaboration (バイシンクプライムコラボレーション)」を提供開始する。(発表会取材:9月9日)

パイオニア VC は、2008年より、パイオニアソリューションズ時代(2014年3月ブイキューブが子会社化。)、ビジュアルコラボレーションサービス「サイバーカンファレンスシステム・プライム(CCS-Prime)」を提供開始し、設計や製造業を中心とした多くの顧客に導入されている。特に設計・開発業務において、3D CAD をはじめとした高精細データを使ったコラボレーション用途で高い評価を得ており、国内のオンプレミス型売上において3年連続でシェア No.1 を獲得している。また、電子黒板システムを多くの小中学校へ導入した実績があり、教員と生徒の間でデータを相互にやり取りすることができる協働学習システム「xSync」を提供してきた。今回、CCS-Prime と xSync のブランドを統合し、企業内外、学びの場における協働作業を支援するソリューションをグローバルに提供していく。

ブイキューブは、これまで7年連続国内 Web 会議市場 No.1(シード・プランニング市場統計)の地位を確立してきたが、今後は、単なる Web 会議提供からトータルな VC ソリューションの提供へと、今まさにその軸を変えていく途上であり、最近では、ビジュアルコミュニケーションプラットフォーム「V-CUBE One」やアジアを中心とした海外展開や、業界ご

とに特化したソリューションを提供していくという戦略から、医療系の合弁事業エムキューブ株式会社の設立なども行っている。そういった中で、パイオニア VC は、ビジュアルコミュニケーションの領域に含まれる製品群を提供しているとはいえ、CAD や地図、回路基板などデータを基に効率的な協働作業を行えるところに大きな特徴がある。

今回発表された xSync のポイントは3つある。(1)これまであった CCS-Prime と xSync ブランドを統合し xSync という統一ブランドで今後パイオニア VC のビジネスを展開する。(2)グローバルプラットフォーム「xSync Global Platform」の提供を開始する。(3)データ共有の高速化など「xSync Prime Collaboration Ver.2.0」の提供を開始する。

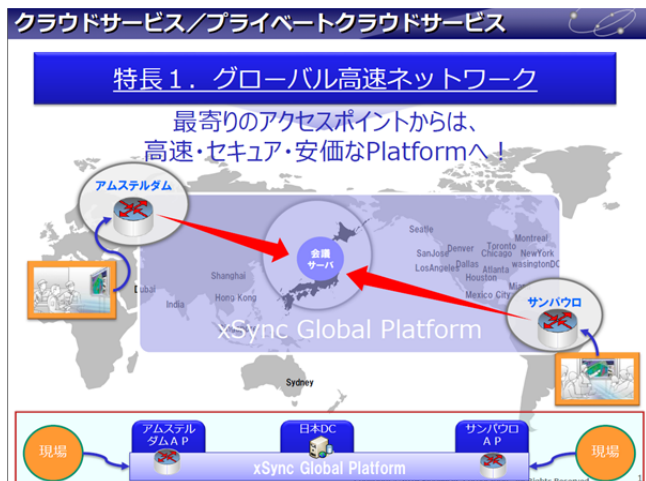
パイオニア VC によると、データを交えた遠隔地間の協働作業において、高い伝達機能、簡単・シンプルな使い勝手、音声品質は不可欠であるという。一方で、CCS-Prime をクラウド環境(2008年開始)で提供すると、社外ネットワーク環境については顧客に依存する形になり、特に日本と海外とのデータなどの共有において、帯域が狭いとか遅延が発生するなど十分なパフォーマンスが出なかったケースもあった。

今回、国外の拠点とも、国内と同じように会議や打ち合わせをしたいという要望に応えるためグローバルな高速ネットワークを提供開始する。このインフラ(xSync Global Platform)には、日本 IBM 株式会社のクラウドサービス「SoftLayer」を採用した。

SoftLayer は、xSync Prime Collaboration にとって国際間通信のインフラになる。パイオニア VC としては、クラウドサービスとオンプレミスの両方をこの SoftLayer プラットフォーム上で展開する。SoftLayer は、世界同時にサービスを立ち上げることが可能な IT 基盤を提供する IBM クラウドサービス。「海外 AP 間トータル 2Tbps の高速回線」「遅延最小の最適ルー

トの専用バックボーン」、「複数の Tier1 キャリアを冗長化接続」といったところに特徴があり、CCS-Prime など従来のクラウドユーザの回線接続といった海外通信品質の問題を解決できそうだ。

また、xSyncPrime サーバを世界 15 か国 40 か所(2014 年中を予定)の SoftLayer データセンターに設置することが可能になる。仮想マシンの仕組みを使って、xSync ユーザは、会議サーバを簡単に手軽に設置したり(サービス利用までの時間の短縮化)、あるいは、海外の最寄りの DC アクセスポイントに接続するだけで、高速・セキュア・安価にグローバル高速ネットワークを活用することが可能になる。

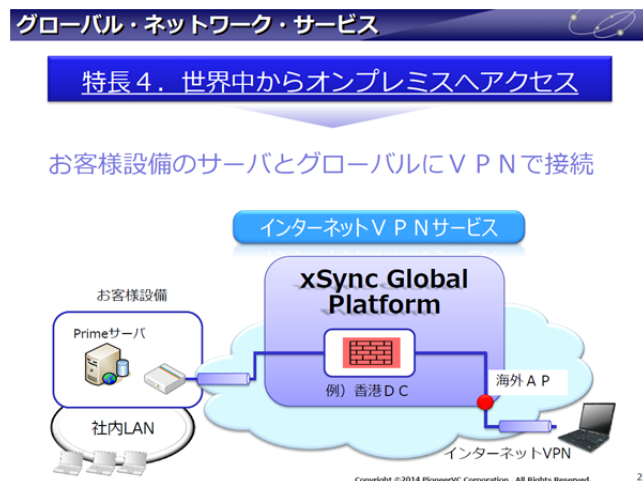


(パイオニア VC 発表資料)

クラウドサービスの提供価格については、接続ポート以外に、高画質、モバイル、リモートコントロールなどこれまでオプションで提供されていたものを全て込みで、月額固定費用で提供する。加えて、そこには、今回新たに提供されるグローバル回線や海外 DC 利用、インターネット VPN 選択かわる費用も含まれる。従来のクラウドサービスに比べオールインワンのわかりやすい低価格で提供する。サービスは 10 月から開始する予定だ。

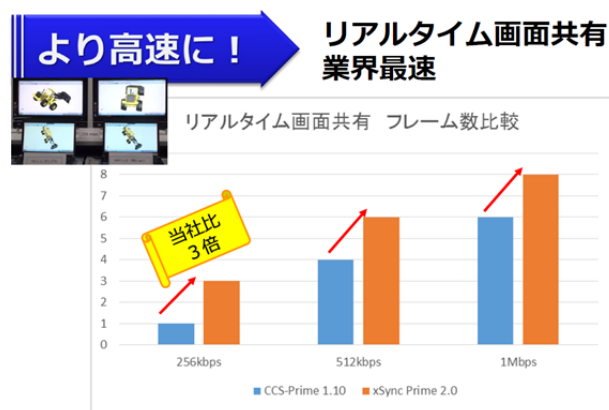
一方、オンプレミス向けのサービスについては、顧客の社内に設置された xSync Prime サーバ(物理サーバ)をグローバル高速バックボーンである xSync Global Platform と直結し、「インターネット VPN サービス」を提供する。世界中から高速・セキュア・安価に接続することが可能だ。

このインターネット VPN サービスは、IBM の東京データセンターが開設されるのに合わせて提供開始するとしている。また、2015 年には、日本に設置された管理サーバ「Prime Manager」と海外に分散配置された会議サーバを xSync Global Platform で連携する「ハイブリットサービス」も予定している。これにより、大規模展開を含めた対応が可能になる。



(パイオニア VC 発表資料)

xSync Prime Collaboration Ver2.0



(パイオニア VC 発表資料)

最後に、xSync Prime Collaboration Ver.2.0 においては、「リアルタイム画面共有の高速化」、管理者権限で自動インストール可能な「Lite インストール」、会議開催前にチェックできる簡単音声・カメラ設定などに対応した。

その中で、リアルタイム画面共有の高速化については、リアルタイム画面共有やフレーム数比較において、一例として

256kbps 接続環境で3倍の高速化(同社比)が実現されている。今回の高速回線の提供とあわせて、国をまたいだ画面共有など協働作業がかなり快適になるようだ。

ブイキューブとしては、今回発表の xSync Global Platform と既に海外拠点間の専用ネットワークとして提供されている「Global Link」をベースとして、企業向けテキストチャットサービス「V-CUBE Gate」をビジュアルコミュニケーション/コラボレーションソリューションの入り口と位置づけ、V-CUBE One、V-CUBE 各サービス(ミーティング、セミナーなど)、そして今回発表の xSync を顧客のニーズに応じて柔軟に選択することができるようにする。

ブイキューブは、これからますますアジアからグローバルの領域へとビジネスを加速していく。

■grabss、WebRTC 無料 Web 会議サービスの提供を開始

株式会社 grabss (グラブス/神奈川県横浜市)は、WebRTC 技術を活用した無料の Web 会議サービス「BizMee」の提供を9月3日より開始する。(9月3日)

BizMee サービスを利用するにあたってのインストールや会員登録などの手続きは一切不要となっている。BizMee へアクセスして会議室を作成し(カメラとマイクへのアクセスを許可する)、会議室のURLを参加者へ伝えるだけですぐにミーティングが始められる。ミーティング中には、ホワイトボードや議事録を共有したり、会議室にロックをかけ入室制限することも可能となっている。ブラウザは、Google Chrome、FireFox、Opera に対応している。ただしiOSやAndroidには対応していない。

WebRTC は、ネットワーク上で端末間を相互に直接接続し、データを送受信する通信方式(P2P)で、特定の利用者間のみで音声通話や映像、メッセージの送受信をリアルタイムで行う。サーバを経由せずにブラウザ間で通信するため、BizMee サービス内での通話内容、映像、テキストメッセージ等は収集されない。

■エイネット、映像を使った高齢者の話し相手と安否確認サービスを提供開始、介護福祉分野に参入

エイネット株式会社(東京都千代田区)は、テレビ会議システム「FreshVoice」の技術を活用し、対話ケア・安否確認サービス「顔見てあんしんコール」を提供開始し、介護福祉ビジネスに本格参入する。(9月3日)

顔見てあんしんコールは、今後高齢化にともなって増加することが予想されている一人暮らしの高齢者の話し相手と安否確認するためのサービスで、高齢者のスマートフォン、タブレット端末に、毎朝専用コールセンターから、顔映像を伴った呼びかけを行う。オペレーターは応答した高齢者の話し相手として対面で10分程度の会話をを行い、体調の異変や何か困ったことがないかなどの聞き取りを行う。聞き取りの結果は事前に登録した連絡先に、毎日メールまたは電話で報告するほか、応答がないまたは緊急を要する場合は、登録された連絡先のほか医療機関や行政機関にも連絡する。

映像を使うことで、高齢者に対するより深い心のケアが行えるほか、オペレーターは高齢者の表情や顔色から異常の有無をある程度読み取ることによって、電話やガスの利用状況、専用センサーを使った安否確認ではわからなかった重大な事態になる前の段階での対処が可能になるという。

なお、契約内容によって、同報呼出し/個別呼出し、会話に費やすことのできる時間制限の変更などさまざまな選択が行えるようになっている。費用はオープン。サービス開始は10月1日から。

エイネットでは、このサービスを開始するにあたって、異業種から介護福祉ビジネスへの参入を計画している企業、あるいは、すでに介護サービスを提供している事業者や介護機器を販売している企業などとのアライアンスを模索する。パートナーの自社サービスと組み込んで提供したり、話し相手と安否確認サービスだけにとどまらず、サービスをより充実させた、富裕層の高齢者に対するコンシェルジュサービスの提供などを共同で運営することを目的としている。

■メディアプラス、Revolabs 社 1.9GHz 帯デジタルワイヤレスマイクシステムの国内出荷開始

株式会社メディアプラス(東京都千代田区)は、Revolabs社(米国マサチューセッツ州)の新製品「Executive Elite」の国内出荷を開始した。(9月4日)



Executive Elite(メディアプラス)

Executive Elite(エグゼクティブ エリート)は、会議室や研修室に最適な、256bit 暗号化通信と 60 秒毎の自動鍵更新により非常にセキュアな DECT 規格(1.9GHz)のデジタルワイヤレスマイクシステム。8ch モデルと 4ch モデルの 2 種類を提供し、最大 44ch 同時使用(日本型番)が可能となっている。いずれもベースステーション(受信機)、チャージャーベース(充電器)、リモートアンテナ、電源を含む。一度の充電により 8 時間ないし 12 時間の連続使用が可能。

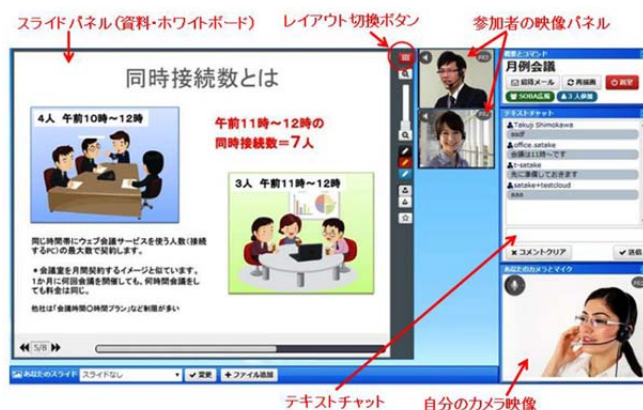
デジタル(AVB)およびアナログのオーディオ接続に対応しさまざまな用途に使用できる。外部アンテナユニットを天井や壁面に設置し、受信機から Ethernet ケーブルで接続することで、会議室への設置をより自由に行うことが可能となっている。

マイクについては、新しいデザインの指向性・無指向性バウンダリマイク、ウェアラブルマイク、XLR アダプタ、ミニ XLR アダプタのマイクロフォン・マイクアダプターを自由に組み合わせて使用できる。また、Revolabs 初となるグースネック(6 インチと 12 インチの 2 モデル)がラインナップに含まれており、大会議室に最適という。なお、上記マイクの中で、ウェアラブルマイク、XLR アダプタ、ミニ XLR アダプタについては 10 月頃出荷開始予定となっている。

Revolabs 社は、2005 年設立。デジタルワイヤレスマイク、音声会議システムの開発と販売を行っている。メディアプラスは国内販売代理店業務を行っている。

■SOBA プロジェクト、クラウド型 Web 会議「SOBA ミエルカ・クラウド」の Web 会議画面を刷新し、独自開発の「アダプティブ・レイアウト」発表

株式会社 SOBA プロジェクト(京都市下京区)は、クラウド型 Web 会議サービス「SOBA ミエルカ・クラウド」の PC 版 Web 会議室レイアウトを刷新し、同社が独自開発した「アダプティブ・レイアウト」を 9 月 3 日にリリースした。(9 月 3 日)



アダプティブ・レイアウトによるさまざまなレイアウト例 (SOBA プロジェクト)

アダプティブ・レイアウトは、ワンタッチで各参加者の映像パネルを均一サイズで並べたり、任意の 1 パネルを拡大表

示したりを切り替えることができ、常に画面サイズに応じて余白を最小限に抑えたグリッド上に自動配列するなど、PC 画面の環境に対して柔軟に適応するレイアウト。従来、固定表示レイアウトだったが、今回のリリースにより、Web 会議の利用シーンやユーザの環境に合わせて変化するため、大変見やすく使いやすい画面になった。

なお、ミエルカ・クラウドは、2013 年 5 月に開始したクラウド型 Web 会議サービス。インストール不要で全機能を Web ブラウザで完結することができる。PC、スマートフォン、タブレットの複数デバイスを1アカウントで使い分けできるとともに、登録アカウント数や会議室数の上限がなく、同時接続数での料金プランを設定している。加えて、7 月に「設定ウィザード」を追加。入室前に自分のカメラや音声の設定を確認することで Web 会議によくある音声・映像トラブルを回避できるという。

■レンタルオフィスの SYNTH、利用顧客向けに Web 会議サービスの提供を開始

レンタルオフィス・サービスオフィスを提供する株式会社 SYNTH(大阪市北区)は、利用顧客向けに2014年8月 Web 会議システムを導入。株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)との業務提携により、SYNTH オリジナルのサービスとして提供する。(9月9日/DreamNews)



SYNTH が提供する Web 会議サービスのイメージ (SYNTH)

Web 会議サービスは、専用個室で24時間365日利用可能で、月額課金制の「3拠点 Web 会議サービスプラン」や15

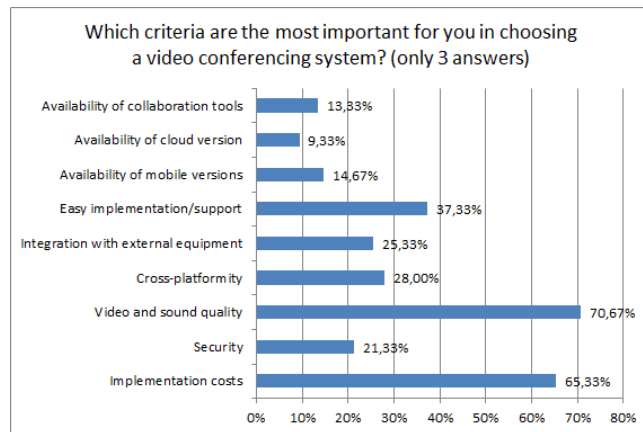
分単位課金制の「短時間 Web 会議サービスプラン」を提供する。インターネット接続が可能な端末であればどの端末でも利用可能で、最大 5 拠点を同時接続して会議が行える。資料共有や議事録として音声データが保管できる機能などビジネスに必要な多くの機能が備わっている。

市場動向-海外

■TrueConf 社、2013 年秋に開催した自社セミナーでのアンケート結果公開

TrueConf 社は、毎年開催している「Video+Conference Russia」を2013年については10月22日にモスクワで開催。CIS 諸国(独立国家共同体)から参加した75名に対して行われたアンケート調査の結果を公開した。(2月11日、メール取材:8月22日)

CIS 諸国のビデオ会議ユーザは、導入や最近のクラウドやモビリティについてどのような考え方を持っているのか興味深い結果が出た。



導入に際してもっとも考慮する点 (TrueConf)

導入に際してもっとも考慮する点を挙げてもらったところ、群を抜いてもっとも多かったのが、「導入コスト」(65%)と「映像および音声の品質」(70%)であった。またセキュリティ(21%)、クロスプラットフォーム(28%)、外部システムとのインテグレーション(25%)などについても高い関心が伺えた。

一方、西欧諸国のクラウドやモバイルへの盛り上がりとは違い、CIS 諸国ではそれらへの関心(9.3%)はそれほど大きく

はない結果となった。ただし、昨年開催時には、オンプレミスへ興味を持った参加者が70%あったが、今年は49%へ下がり、クラウドへの関心は徐々に高まっている。その中で、11%はビデオ会議に関心を示したが、27%は Web 会議に関心を示した。

その他、今後の導入意向についても伺った。20%が未導入だが今後導入への関心ありを示し、80%が現在の導入済のビデオ会議システムの拡張を予定している、あるいは、27%は現在の老朽化したシステムを更改したいと考えている。TrueConf社としては、ビデオ会議へのニーズはあると期待している。



ビデオ会議の利用の仕方 (TrueConf)

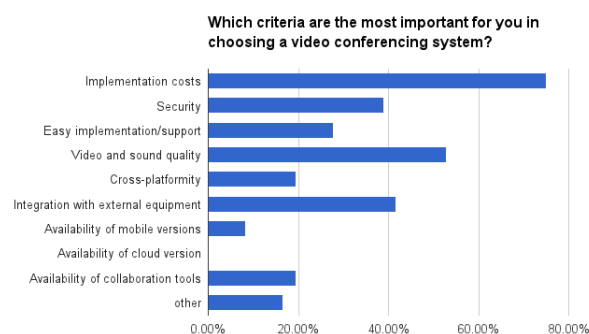
ビデオ会議ユーザのうち、57%がワークプレสดesktopから直接ビデオ会議をおこなっていると回答した。また、会議室に設置しているビデオ会議システムを利用しているユーザは45%で、TrueConf社によると、ルームシステムからデスクトップへのシフトが見られるという。

利用している周辺機器について。まず、カメラについては、Webカメラが76%でもっとも多く、その後をPTZカメラ(35%)、IPカメラ(20%)と続く。また書画カメラについては、10%の結果だった。音響関係では、内蔵のスピーカー/マイク(65%)、ヘッドセット(50%)、また1/3の回答者がスピーカーフォン、1%がマイクフォンを回答した。

参加者は、市場の動向について関心が高く、76%がセミナーでの市場動向について満足しており、そのうち75%が関連のニュース情報(TrueConfとWainhouse)を得ることに興味を示した。昨年の60%を上回っている。

■TrueConf社とGarets社、ポーランドでセミナーを開催し、ユーザ傾向調査を実施

TrueConf社(ロシア、モスクワ)と販売パートナーGarets社(ポーランド)が、「Video + Konferencja Polska 2014」をワルシャワで5月20日開催。システムインテグレータを含めUC&Cや情報システム部門の管理者など50名が参加し、アンケート調査を行った。(6月25日、メール取材:8月22日)



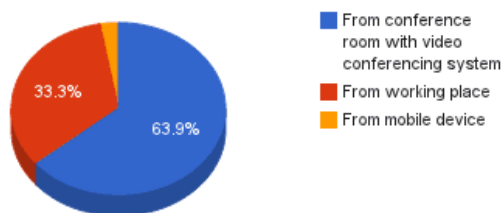
導入に際してもっとも考慮する点 (TrueConf)

まず、導入に際してもっとも考慮する点を挙げてもらったところ、「導入コスト」(75%)、つづいて「音声とビデオ映像品質」(53%)があがった。若干パーセンテージが違うが、CIS諸国とはおおむね同様な傾向を示している。また、クラウドとモバイルを考慮するかについては、ポーランドもCISでも基本的にはまだ関心の度合いは低い結果となった。

クラウドとオンプレの利用傾向については、ポーランドのユーザは、オンプレミスのビデオ会議ソリューションを導入する傾向が強く、クラウドを利用しているのはわずか5%のみだった。この結果は、数年前のCIS諸国での傾向に似ており、今後、CIS諸国と同様にクラウドへの需要が高まっていくと思われる。

今後の導入意向については、72%が既存のビデオ会議システムの拡張を予定しているとしている。また、22%が新しいシステムへ更改する意向を示している。ポーランドのユーザは新規導入というよりも、現在のシステムの拡張を検討しているところが多いようだ。この点についてはCIS諸国より若干多めの傾向(ポーランド:36%、CIS:30%)と出た。

How do you organize video conferences?



ビデオ会議の利用の仕方 (TrueConf)

ビデオ会議を利用形態については、会議室からが 63%。まだまだビデオ会議は会議室で使うものとの認識が強い。一方、ワークプレースから行うユーザが 33%、モバイルデバイスを使うユーザは僅かとの結果。CIS 諸国では 57%がワークプレースからビデオ会議を行っているという点では対照的だ。また、モバイルについては世界的なトレンドを追って今後ポーランドもニーズが増えてくるのではないと思われる。

周辺機器について。利用しているカメラについては、内蔵 Web カメラが 58%、PTZ カメラが 36%、IP カメラが 22%といった結果。ポーランドと CIS 諸国では共通した傾向となっている。

一方、ヘッドセットの利用者は 41%。Laptop 内蔵のスピーカーマイクを利用しているユーザは 38%、スピーカーフォンは 25%となった。UC や周辺機器への利用傾向は CIS 諸国と比べ数年の差がある。

全体的には、ポーランドは、CIS 諸国に比べ数年の開きがあるが今後、関心の高まりとともに、その差は縮んでくると期待している。

CNA レポート・ジャパン PR

■株式会社日立ハイテクノロジーズ

<http://cna.jp/Hitachi-HighTech3.htm>

セミナー・展示会情報

<国内>

■BIG PAD を活用したクラウド型 Web 会議サービス「TeleOffice」体感セミナー

日時: 9月17日(水)14:00~16:00

会場: シャープ株式会社 東京支社

主催: シャープビジネスソリューション株式会社

詳細・申込:

<http://www.sharp-sbs.co.jp/event/regular/teleoffice-a.html>

■【大阪】Web 会議を選ぶためにチェックしておきたい『6つのポイント』セミナー ~大阪・東京で同時開催!~

日時: 9月18日(木)15:30~17:30 (受付開始:15:00)

会場: キヤノンソフトウェア 大阪堺筋事業所

主催: キヤノンソフトウェア株式会社

詳細・申込: <https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/237>

■【東京】Web 会議を選ぶためにチェックしておきたい『6つのポイント』セミナー ~東京・大阪で同時開催!~

日時: 9月18日(木)15:30~17:30 (受付開始:15:00)

会場: キヤノンソフトウェア 本社(東京都品川区)

主催: キヤノンソフトウェア株式会社

詳細・申込: <https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/236>

■「スマートワークスタイル」フォーラム ~ 多様な働き方実現の「勤所」を、実践企業とトップベンダーが実例で紹介~

日時: 9月19日(金)13:30~17:30(受付:13:00)

会場: トラストシティカンファレンス・丸の内(東京都千代田区)

主催: ユニアデックス株式会社

協賛: シスコシステムズ合同会社、日本マイクロソフト株式会社、ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:

http://www.uniadex.co.jp/event/2014/event_20140919_462.html

* ユニアデックス、日本マイクロソフト、ポリコムジャパン、シスコシステムズ 各社の講演のほか、ユーザとベンダーを交えたパネルディスカッションもあります。モデレーターはリックテレコム テレコミュニケーション編集部 副編集長 坪田 弘樹 氏。

国内その他: <http://cna.jp/cna/event-j.html>

海外その他: <http://cna.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作: カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

情報発信について

CNAレポート・ジャパン(橋本啓介)では、国内外における、「製品・サービス」「ビジネス」「ユーザ導入・利用」「決算発表」「人事発表」「市場統計データ」「セミナー・展示会」といった観点から、インターネットに公開されている、各社のプレスリリースやお知らせ、ニューズメディアサイト、ポータルサイト、ブログ、掲示板、youtube、メルマガ、Linkedin、Twitter、Facebook、google+などに掲載されている遠隔会議関連の情報を日々収集しております。

下記配信では、市場トレンドを見ていく上で参考になると思われる情報を配信しています。皆様ご自身の情報収集と合わせてご利用いただければと存じます。

定期レポート(15日・月末発行): 各社からのプレスリリース、CNAレポート・ジャパンの取材による記事

Dtc-forum メーリングリスト、フェイスブック&Twitter(それぞれほぼ毎日配信): 定期レポートであつかっている各社からのプレスリリースや取材に加え、遠隔会議システムに関する情報全般。

詳細は、<http://cna.jp> 「情報配信について」をご覧ください。

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。

11月大阪と東京の二か所で某ユーザ会の皆様へ市場動向やユーザトレンドについての講演をさせていただく予定です。有難い機会です。少しでも何かにお役に立てればと思っております。

次号もよろしく願い致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介